

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	2891300044		
法人名	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団		
事業所名	グループホーム村いちばんの元気者		
所在地	丹波市市島町上竹田2322-1 (電話) 0795-85-6301		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009年8月10日	評価確定日	2009年10月5日

【情報提供票より】(2009年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(117,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	150 円	昼食	510 円
	夕食	340 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要(7月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	5名	要介護 2	5名		
要介護 3	7名	要介護 4	0名		
要介護 5	0名	要支援 2	1名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	回春堂 中澤医院
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームは山に囲まれた緑豊かな自然の中にあり、ゆったりした敷地内には広い芝生の庭と畑など恵まれた環境にある。利用者一人ひとりの生活支援は家族や地域とのつながりが特に重要と考えており、カンファレンスは3ヶ月に1回、かならず利用者、家族を交えて実施している。これからは、利用者の心身状態の重度化や最期までホームでの生活を望む利用者の気持ちに添えるような体制づくりが求められる。そのためには看護師を含めた職員体制の充実、これまで以上の併設施設との協力体制強化が重要課題であると思われる。ホーム1周年の記念文集はホームの集大成ともいえる良い記録である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・地域行事参加や交流が徐々に定着し、隣近所との馴染みの関係が深まってきている。・今回の自己評価は全職員で取り組んだ。・運営推進会議を情報公開や交流の機会として積極的に活用している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・4月以来、月例ユニット会議で全職員が項目を分担して取り組み、リーダーがまとめ、最終報告は管理者が行った。職員は項目の理解を深める機会として、管理者は個々の職員の職務状況の再確認の機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・ホームからは施設全体の事業報告や、ホームの現況などを積極的に報告し、食事会などの交流や意見交換の場としても活用している。今後は、映像による報告を取り入れて、理解を深めていきたい考えである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・年2回の家族会だけでなく日常的に多数の来訪があるが、3ヶ月に1回のカンファレンスは利用者、家族が出席して開催するものとなっており、家族にとってはじっくり話しができる機会となっている。ホームは家族の希望や意見、相談の機会として重視している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域の行事参加は積極的に進められ、地元商店での買物や子どもとの触れ合いは日常的になっている。地域での馴染みの関係がより深まり、お裾分けなどの隣近所の付き合いが自然に行われている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・母体法人の事業団憲章を基に、家族との絆、地域とのつながりを大事に、その人らしい暮らしが安心・安全に築けるよう目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各自が家事や畑の手入れをして過ごす日常生活の中で、地元行事への参加や近所付き合いが自然に行われている。職員は利用者のその人らしさの理解に努め、日々の関わりのなかから身につけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・お裾分けなどの隣近所の付き合いがスムーズに行われている。小学生との触れ合いも日常的に行われている。地元子供会主催のラジオ体操にお誘いを受けるなど行事参加は恒例となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は4月からの月例ユニット会議で全職員が分担して取り組み、リーダーがまとめ、管理者が最終作成した。職員は項目内容の理解を深める研修の位置づけとして、管理者は職員個々の日々のケアの捉え方を知る機会として活用した。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・併設施設を含む事業実績報告などの情報公開及び食事会を兼ねた交流等、積極的に情報発信して活用している。今後は映像を通してホームの様子を伝えていきたいと考えている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・制度的な事務連絡等を通じてホームの状況を伝えるなど、継続的な行き来はある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月担当職員がおたよりを添えて事務報告している。医療面での状態変化等は、随時電話やメールで連絡相談している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族の集いや普段の来訪時、3ヶ月に1回のカンファレンス出席の折には、意見や意向を聞く機会となっている。特にカンファレンス時は、家族が個別の相談や要望を心おきなく話せる機会といえる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・開設以来、法人内の異動及び離職があったが、リーダーを中心に職員間の協力で補ってきた。定期異動はやむをえないが、利用者の不安をできるだけ軽減するために、離職もできるだけ防ぐよう配慮していきたいと考えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・他事業所の見学や外部研修の参加、内部研修として毎日のDVDによる学習、個々のカンファレンスやミーティングでのフォローアップ機会など、目的に応じた学習の場を提供している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・昨年、市内のグループホームネットワークを立ち上げ、市担当者も出席して定期的に情報交換している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・見学や体験利用の活用を勤めるとともに、出来るだけ本人が納得してもらえる利用に繋げるために、家族にくりかえし来訪してもらうなどの協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・全職員が、日常の家事や趣味などの楽しみに一緒に関わることにより、人生の先輩として日々学ぶことが多い。常に感謝の気持ちを忘れないよう心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・言葉だけでなく非言語コミュニケーションを大事にし、職員は利用者固有のサインをキャッチできる観察力を身につけ、実践に活かすよう努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月ごとのカンファレンスには、利用者、家族に必ず出席してもらうことで、本人の生きがいや希望を反映したその人らしい計画となるよう配慮している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・家族の希望を参考にし、利用者の状態に適合した計画となるよう、柔軟にサービスの追加、削除を心がけている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・利用者が希望する買物などの外出は日常的に支援している。また、馴染みのかかりつけ医への通院は、利用者の要望に合わせて送迎している。入院先の病院の環境に馴染めなかった利用者には、早期退院を勧めホームで介護援助をした。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者や家族が希望するかかりつけ医への通院援助をし、医療の継続に力を入れている。体調不良時には、かかりつけ医と連携を取り指示を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時に重度化に対する指針を説明し、本人や家族の意向を確認しながら対応方針を共有している。急変の直前までホームで介護したケースも3件ある。</p>		<p>・終末期の対応については今後の課題とし、チーム連携、職員の技量と覚悟などを検討していきたいと考えているとのこと。利用者の重度化が進む中で、看護師の存在が不可欠ではないだろうか。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・親しみの関係の中で、気づかずに入居者の誇りやプライバシーを傷つける声掛けや行動をした時は、毎日の「ちょこっとミーティング」で話し合っている。さらに、毎月提出の「あったかサポートチェック表」で自己点検をし、各自来月の改善目標を作成している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・業務日誌に「元気報告」「いきいきお出かけ報告」などの項目を作り、利用者それぞれの喜びの瞬間を見逃さず記入している。笑顔が出るようなその人らしい暮らしとは何か、を職員全員で常に考えながら支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・昼食は法人の配食サービスを利用し、朝食・夕食は、利用者とともに毎日買物に出掛け一緒に調理している。畑作りの得意な人が収穫した野菜は、その日のメニューに追加される。夕食や出前も取り入れ、毎日晚酌を楽しんでいる人もいます。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・入浴は利用者の楽しみでもあるので、毎日入浴や午前・夜間入浴の希望にも柔軟に対応している。今後は入浴剤やBGMなどの入浴環境にも配慮したいと考えている。</p>		<p>・浴室は家庭的雰囲気であるが、重度化した時には対応が難しい構造である。ADLが低下した利用者の安全入浴のために、隣接の特別養護老人ホームと連携し、機械浴利用を検討してはどうか。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・畑仕事が得意な人の野菜は、利用者同士でも賞賛されている。隣接の特別養護老人ホームの喫茶店や映画会への参加、図書館・公民館・文化ホールの利用なども希望があれば同行している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援している</p>	<p>・散歩、買物へは日常的に出掛けている。作品を出展し好評を博した案山子祭りにも見物に出掛けた。夜に行われた花火大会やコンサートにも職員が同行して楽しんだ。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・昼間は、地域の方がいつでも気楽に訪問できるように鍵をかけていない。利用者も比較的自由に出入りできるが、安全管理が必要な人にはアクセスコードをつけてもらっている。夜間は防犯上を懸念し施錠している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・近隣の地域住民の協力を得て、防災マニュアルに基づいた昼・夜間想定避難訓練を実施した。職員全員へは自動通報システムを利用し、緊急時の協力体制をつくっている。さらに、火災以外の災害想定訓練も検討している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・毎日の「ちょこっとミーティング」で、医師の指示がある人の食事量・水分量を報告し共有している。全員の摂取量を数値的に記入はしていないが、体調不良の人にはカロリー不足や水分不足が起こらないよう配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・ホームを一周できる遊歩道で、四季を通じて花や野菜を楽しめるようにしている。玄関周りには利用者とともに育てている花壇や木のオブジェを飾っている。リビングには利用者とともに花を飾り、壁には季節感のある貼り絵などを行っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室は、利用者と家族の意向で個性的でくつろげる空間となっている。家族が畳を新調し和室としている居室もある。廊下からは踏み込みスペースがあり二重扉となっているので、プライバシーは守られるが、緊急時には危険が予測され、職員は十分配慮している。</p>		

 は、重点項目。